

第6期 第3回

令和4年5月20日（金）

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

1. ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

①令和3年度のごみ減量・リサイクルの状況について【速報値】

②可燃ごみの状況について

③不燃ごみの状況について

④粗大ごみの状況について

⑤古紙等の状況について

⑥施設への直接搬入について

⑦取り残しごみの状況について

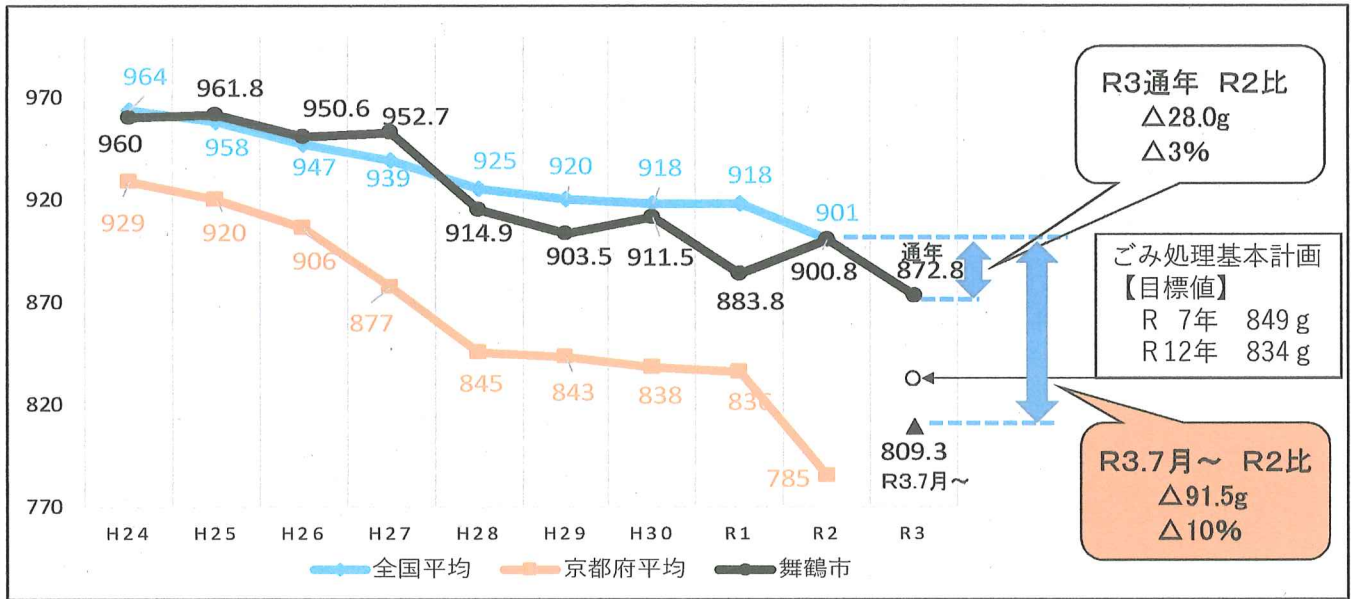
⑧まとめ

⑨その他

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

①令和3年度のごみ減量・リサイクルの状況について【速報値】

(1)舞鶴市の1人1日あたりごみ排出量の推移について(単位：g/1人1日)



- 令和3年度の1人1日あたりごみ排出量は通年で872.8g、前年比3%減。
- 手数料見直し後のR3.7月以降では809.3gとなり、前年比10%減。令和2年度の全国平均は下回るが、京都府内でのごみ減量も大きく進んでおり、府内平均には達していない。

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

①令和3年度のごみ減量・リサイクルの状況について【速報値】

(2)京都府内15市での状況について ※環境省資料参照

- ◆令和3年7月以降の舞鶴市のごみの状況を府内15市 (R2) と比較
  - 1人1日あたりごみ排出量は、府内15市中9位。(R2時点では13位)
  - 資源化率は11位 (R2時点では11位)
  - 最終処分量は8位 (R2時点では12位) ※ () は府内15市での本市順位

	舞鶴市		京都府内平均 (令和2年度)	上位市 (令和2年度)
	R2実績	R3.7~R4.3 実績		
1人1日あたり ごみ排出量	900.8g (13位)	809.3g (9位)	785g	1位. 南丹市 676g 2位. 向日市 681g 3位. 京田辺市 737g
資源化率	14.0% (11位)	14.1% (11位)	14.3%	1位. 綾部市 52.6% 2位. 宮津市 22.8% 3位. 南丹市 20.7%
最終処分量 (1人/年)	52.0kg (12位)	42.5kg(注) (8位)	40.1kg	1位. 南丹市 21.9kg 2位. 京田辺市 27.3kg 3位. 木津川市 29.2kg

(注)9ヶ月分の実績を12ヶ月に換算して算出

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

①令和3年度のごみ減量・リサイクルの状況について【速報値】

(3)ごみ排出量について

- ・ごみ排出量全体で5%減。すべてのごみ種別において排出量が減少している。

	令和2年度	令和3年度	
	実績	実績	R2比増減
ごみ排出量(t)	26,219.2 t	24,985.7 t	△1,233.5 t △4.7%
可燃ごみ(t)	20,150.3 t	19,366.9 t	△783.4 t △3.9%
不燃ごみ(t)	3,025.3 t	2,846.5 t	△178.8 t △5.9%
粗大ごみ(t)	1,140.3 t	1,072.3 t	△68.0 t △6.0%
古紙等(t)	1,903.3 t	1,700.0 t	△203.3 t △10.7%

古紙等＝古紙直接搬入+集団回収+分別回収

※分別回収・・・不燃ごみ収集日に行う古紙の業者回収

※集団回収・・・地域で実施する古紙、繊維、アルミ類の回収

5

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

①令和3年度のごみ減量・リサイクルの状況について【速報値】

(4)1人1日あたりごみ排出量について

- ・令和3年7月以降の1人1日あたりごみ排出量は、令和2年度比で91.5g、10%減。通年では、6月までの駆け込み搬入・排出の影響を受け、28.0g、3%減となっている。
- ・ごみ処理手数料の見直し後は、全品目でごみ量が減少。特に、不燃ごみ、粗大ごみの減少割合が大きい。

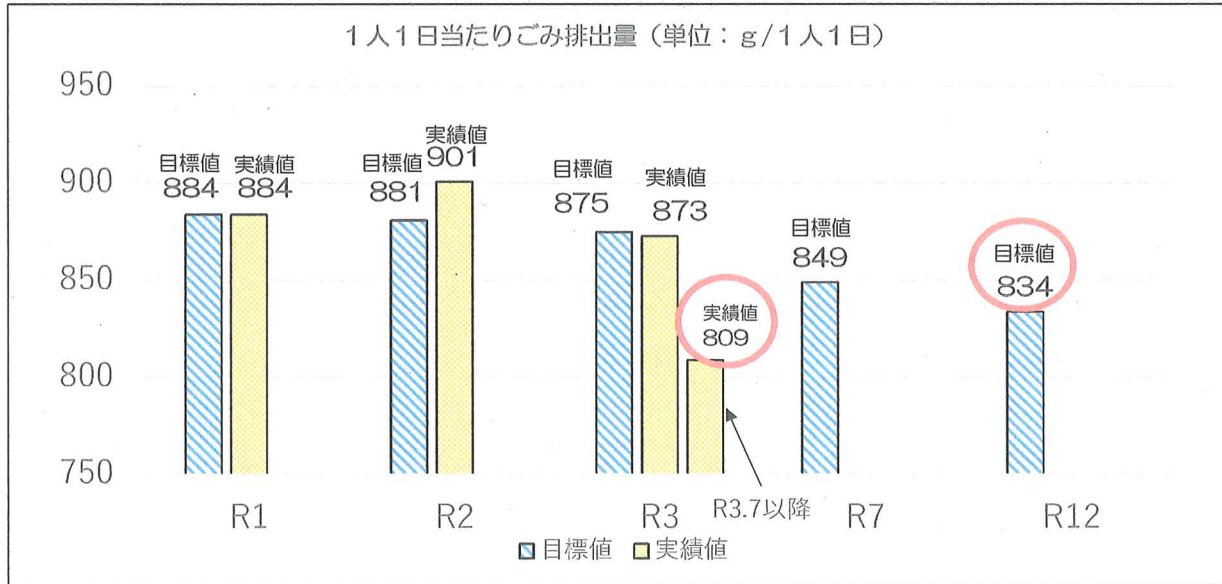
	R2	R3		R3.7~R4.3	
	実績	実績	R2比増減	実績	R2比増減
1人1日ごみ排出量 (g/1人1日)	900.8 g	872.8 g	△28.0 g △3.1%	809.3 g	△91.5 g △10.2%
可燃ごみ(g/1人1日)	692.3 g	676.5 g	△15.8 g △2.3%	648.7 g	△43.6 g △6.3%
不燃ごみ(g/1人1日)	103.9 g	99.4 g	△4.5 g △4.3%	78.9 g	△25.0 g △24.1%
粗大ごみ(g/1人1日)	39.2 g	37.5 g	△1.7 g △4.3%	26.9 g	△12.3 g △31.4%
古紙等(g/1人1日)	65.4 g	59.4 g	△6.0 g △9.2%	54.9 g	△10.5 g △16.1%

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

①令和3年度のごみ減量・リサイクルの状況について【速報値】

(5) 1人1日あたりごみ排出量の推移について

- ・ごみ処理基本計画では、1人1日あたりごみ排出量を令和元年度884g（実績）から、令和12年度には834gとする目標を設定。
- ・令和3年7月以降については目標値を上回るペースでごみ減量が進んでいる。



ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

②可燃ごみの状況について

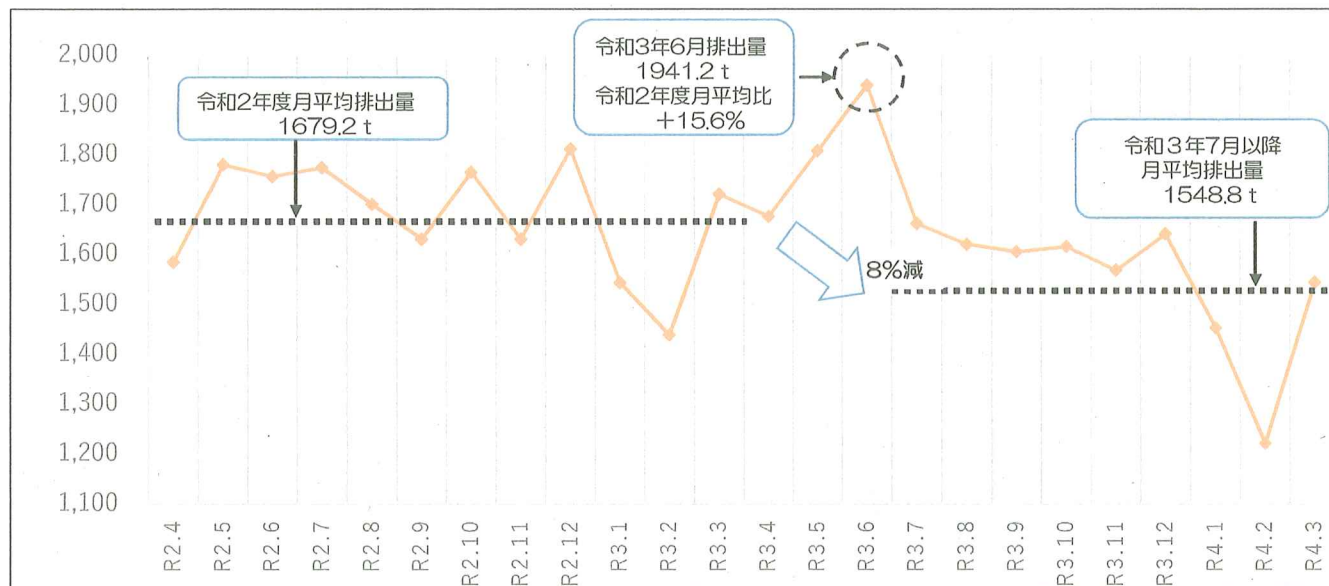
(1) 可燃ごみ排出量の内訳について(単位：t)

- ・生活系・事業系とも排出量は減少。特に生活系が大きく減少している。
- ・直接搬入量は21%減。収集量に大きな変動は無いが、直接搬入の有料化に伴い、収集への移行があったものと考えられる。

		令和2年度	令和3年度	
		実績	実績	R2比増減
可燃ごみ排出量	生活系	13,312.5 t	12,574.8 t	△737.7 t △5.5%
	事業系	6,837.8 t	6,792.2 t	△45.6 t △0.7%
	合計	20,150.3 t	19,366.9 t	△783.4 t △3.9%
収集	生活系	10,385.7 t	10,496.5 t	110.8 t 1.1%
	事業系	5,675.3 t	5,646.0 t	△29.3 t △0.5%
	合計	16,061.0 t	16,142.5 t	81.5 t 0.5%
直接搬入	生活系	2,926.8 t	2,078.3 t	△848.5 t △29.0%
	事業系	1,162.5 t	1,146.1 t	△16.4 t △1.4%
	合計	4,089.3 t	3,224.4 t	△864.9 t △21.2%

②可燃ごみの状況について

(2)可燃ごみ排出量の推移について(単位：t)



- 可燃ごみ量は季節により変動するが、昨年度の月平均搬入量と、手数料見直しを実施した令和3年7月以降の月平均搬入量を比較すると8%減少している。

②可燃ごみの状況について

(3)1人1日あたり可燃ごみ排出量について(単位：g)

- 令和3年7月以降の生活系可燃ごみは39.0g、9%の減少。事業系可燃ごみについては4.6g、2%の減量が図られた。
- 1人1日あたりの可燃ごみ排出量は、手数料見直しによる影響が見られ、日々のごみ排出行動やライフスタイルの変化が発生しているものと推測される。

	R2	R3		R3.7以降	
	実績	実績	R2比増減	実績	R2比増減
1人1日あたり可燃ごみ排出量	692.3 g	676.5 g	△15.8 g △2.3%	648.7 g	△43.6 g △6.3%
生活系可燃ごみ	457.4 g	439.3 g	△18.1 g △4.0%	418.4 g	△39.0 g △8.5%
事業系可燃ごみ	234.9 g	237.3 g	2.4 g 1.0%	230.3 g	△4.6 g △2.0%

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

③不燃ごみの状況について

(1)不燃ごみ(7種9分別)の排出量について(単位：t)

- 不燃ごみの総排出量は178.8 t、6%減少。
- 埋立ごみは114.8 t、8%減少、プラスチック容器包装類は19.1 t、3%増加。ペットボトルは34.2 t、19%減少。

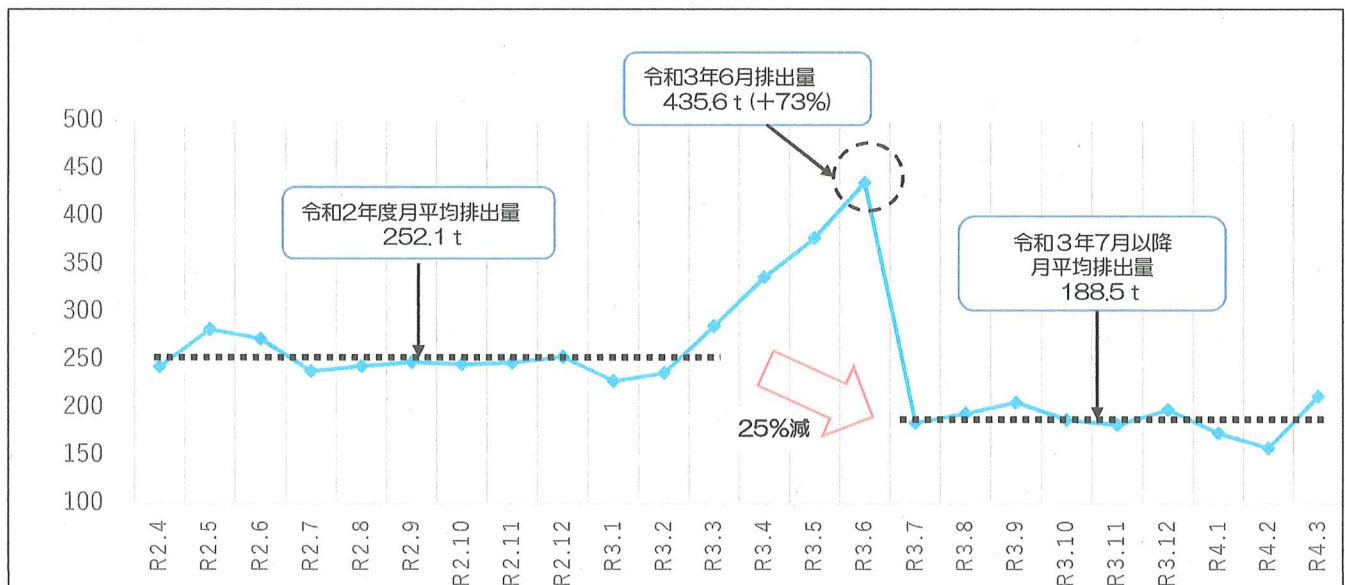
	R2	R3	
	実績	実績	R2比増減
不燃ごみ(7種9分別)	3,025.3 t	2,846.5 t	△178.8 t △5.9%
埋立ごみ	1,411.8 t	1,297.0 t	△114.8 t △8.1%
プラスチック容器包装類	615.5 t	634.6 t	19.1 t 3.1%
ペットボトル	182.2 t	148.0 t	△34.2 t △18.8%
金属類	252.1 t	231.8 t	△20.3 t △8.1%
飲料用空缶類	116.5 t	101.7 t	△14.8 t △12.7%
食用びん類	380.6 t	373.8 t	△6.8 t △1.8%
有害ごみ	66.7 t	59.6 t	△7.1 t △10.6%

11

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

③不燃ごみの状況について

(2)不燃ごみ(7種9分別)排出量の推移について(単位：t)



- 昨年度の月平均排出量と、手数料見直しを実施した令和3年7月以降の月平均排出量を比較すると25%減少し、不燃ごみ排出量は大きく減少した。

③不燃ごみの状況について

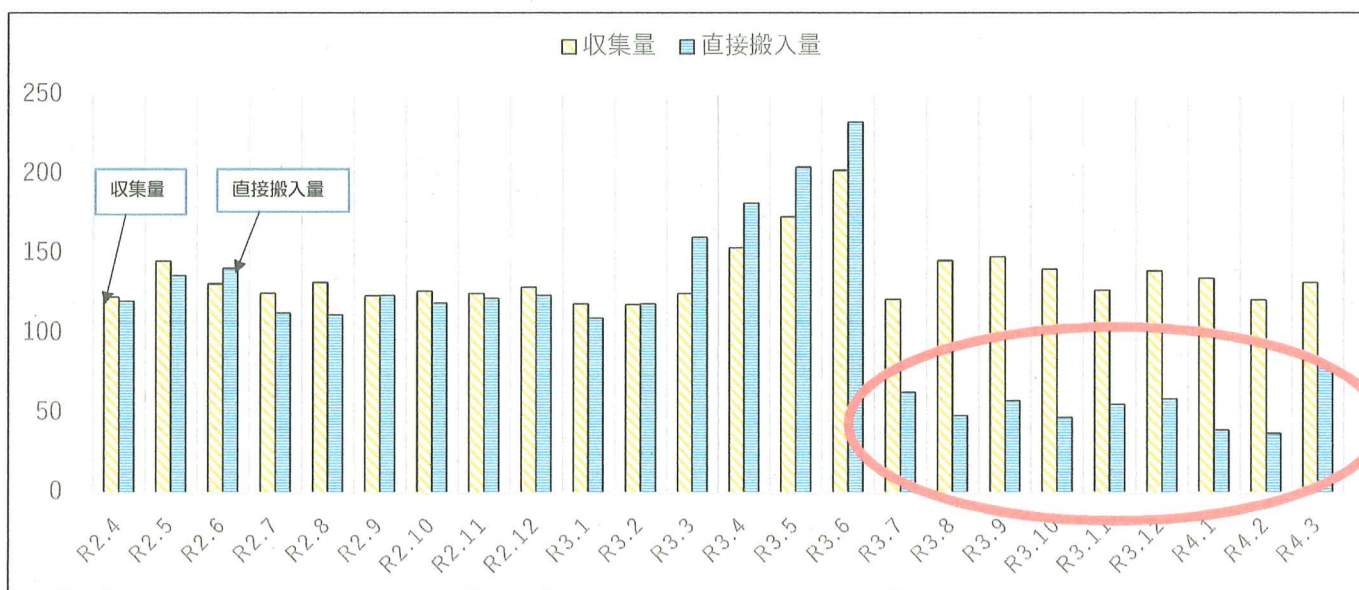
(3) 1人1日あたり不燃ごみ排出量について(単位：g)

- 令和3年7月以降の1人1日あたり不燃ごみ排出量は、24%減。
- 有料化を実施した品目では、埋立ごみが41%減、プラスチック容器包装類が3%増、ペットボトルが25%減となっている。
- また、有料化した品目以外でも排出量が減少しており、手数料見直しが市民のごみ排出行動に変化をもたらしたものと推測される。

	R2	R3		R3.7以降	
	実績	実績	R2比増減	実績	R2比増減
不燃ごみ(7種9分別)	103.9g	99.4g	△4.5g △4.3%	78.9g	△25.0g △24.1%
埋立ごみ	48.5g	45.3g	△3.2g △6.6%	28.6g	△19.9g △41.1%
プラスチック容器包装類	21.1g	22.2g	1.0g 4.8%	21.8g	0.6g 3.0%
ペットボトル	6.3g	5.2g	△1.1g △17.4%	4.7g	△1.5g △24.7%
金属類	8.7g	8.1g	△0.6g △6.5%	6.3g	△2.4g △27.7%
飲料用空缶類	4.0g	3.6g	△0.5g △11.3%	3.4g	△0.6g △15.1%
食用びん類	13.1g	13.1g	0.0g 0.0%	12.5g	△0.6g △4.4%
有害ごみ	2.3g	2.1g	△0.2g △9.1%	1.7g	△0.6g △25.7%

③不燃ごみの状況について

(4) 不燃ごみ(7種9分別) 排出方法の推移について(単位：t)



- ごみ処理手数料見直し後、直接搬入量が大幅に減少し、収集への移行、ごみ排出量の減少が見られる。
- 一方で、手数料見直し前の駆け込み排出・搬入から一定期間が経過し、今後のリバウンドが懸念される。

④粗大ごみの状況について

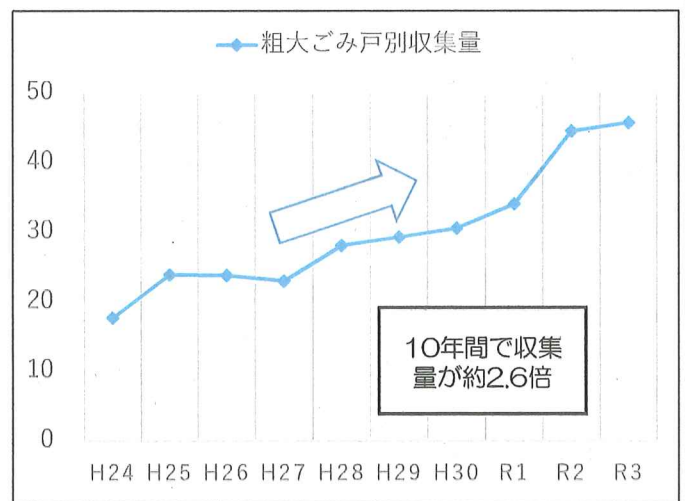
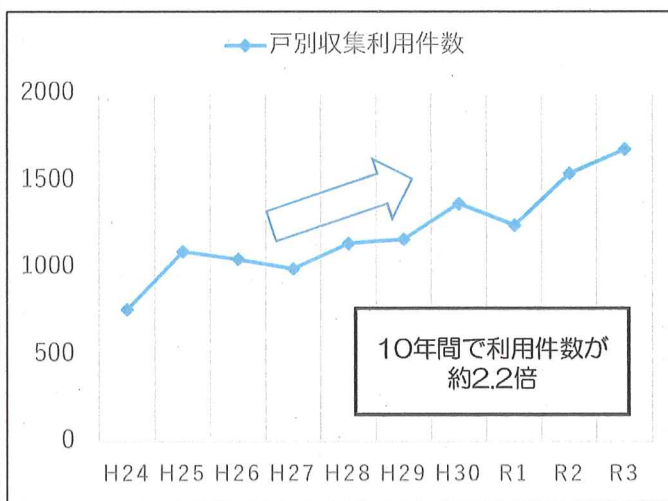
(1)粗大ごみ排出量について

- 令和3年7月以降の1人1日あたり粗大ごみ排出量は31%減少。手数料見直し前の駆け込み搬入等の影響も推測され、今後のリバウンドが懸念される。
- 粗大ごみの排出量等には大きな変化はないが、戸別収集による排出量、また、利用世帯数は増加しており、今後も増加傾向が見込まれる。

	R2	R3		R3.7以降	
	実績値	実績値	R2比増減	実績値	R2比増減
1人1日あたり排出量(単位:g)	39.2g	37.5g	△1.7g △4.3%	26.9	△12.3t △31.4%
総排出量(単位:t)	1,140.3t	1,072.3t	△68.0t △6.0%		
直接搬入量(単位:t)	1,095.7t	1,026.8t	△68.9t △6.3%		
戸別収集量(単位:t)	44.5t	45.5t	1.0t 2.2%		
戸別収集利用世帯数	705世帯	821世帯	116世帯増		

④粗大ごみの状況について

(2)粗大ごみ戸別収集の利用状況について



- 粗大ごみの排出方法について、戸別収集の利用件数、収集量は年々増加しており、10年前と比較しても、利用件数が約2.2倍、収集量が約2.6倍となっている。



ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

⑤古紙等の状況について

(1)古紙等の排出量について(単位：t)

- 古紙等の排出量は全体で11%減少。
- 分別収集は4%増加。清掃事務所への直接搬入は34%減少。

	R2	R3	
	実績	実績	R2比増減
古紙等	1,903.3 t	1,700.0 t	Δ203.3 t Δ10.7%
分別収集※1	698.3 t	728.7 t	30.4 t 4.4%
直接搬入※2	594.0 t	390.6 t	Δ203.4 t Δ34.2%
集団回収※3	611.1 t	580.7 t	Δ30.4 t Δ5.0%

- ※1 不燃ごみ収集の際の業者収集量
- ※2 清掃事務所への直接搬入量
- ※3 地域での回収活動による回収量

ごみ処理手数料見直し後の状況報告について

⑤古紙等の状況について

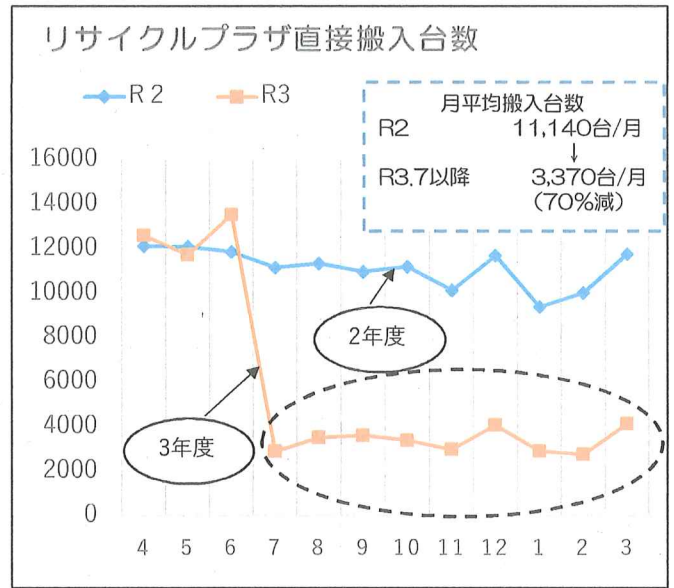
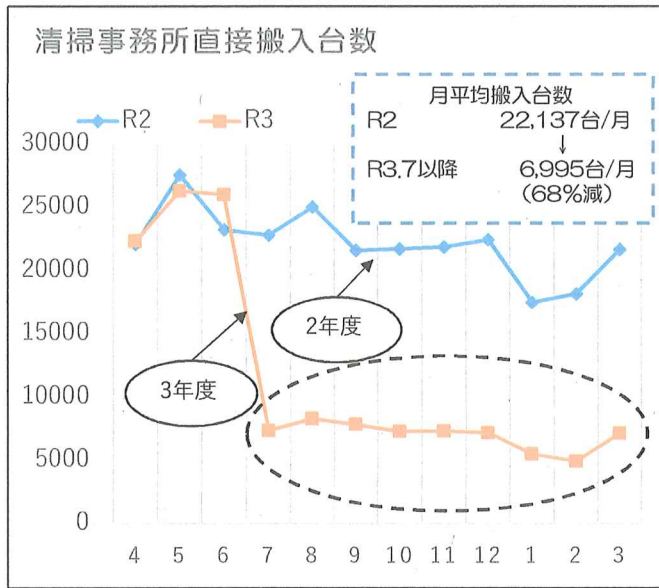
(2)古紙等の1人1日あたり排出量について(単位：g)

- 令和3年7月以降の1人1日あたり古紙等の排出量は10.5g、16%減少。直接搬入量は10.9g、53%減少。
- 集団回収量は、新型コロナウイルス対策のため活動が縮小傾向にあり、微減となっている。

	R2	R3		R3.7以降	
	実績	実績	R2比増減	実績	R2比増減
1人1日あたり古紙等排出量	65.4 g	59.4 g	Δ6.0 g Δ9.2%	54.9 g	Δ10.5 g Δ16.1%
分別収集	24.0 g	25.5 g	1.5 g 6.3%	25.1 g	1.1 g 4.6%
直接搬入	20.4 g	13.6 g	Δ6.8 g Δ33.3%	9.5 g	Δ10.9 g Δ53.4%
集団回収	21.0 g	20.3 g	Δ0.7 g Δ3.3%	20.3 g	Δ0.7 g Δ3.3%

⑥施設への直接搬入について

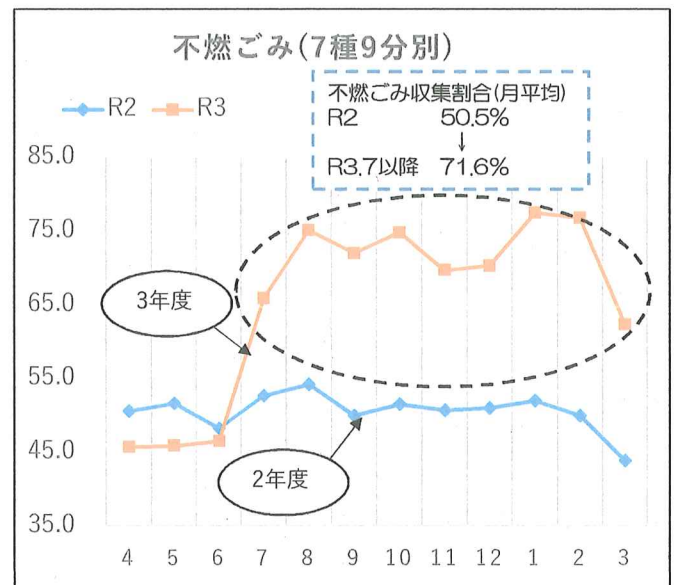
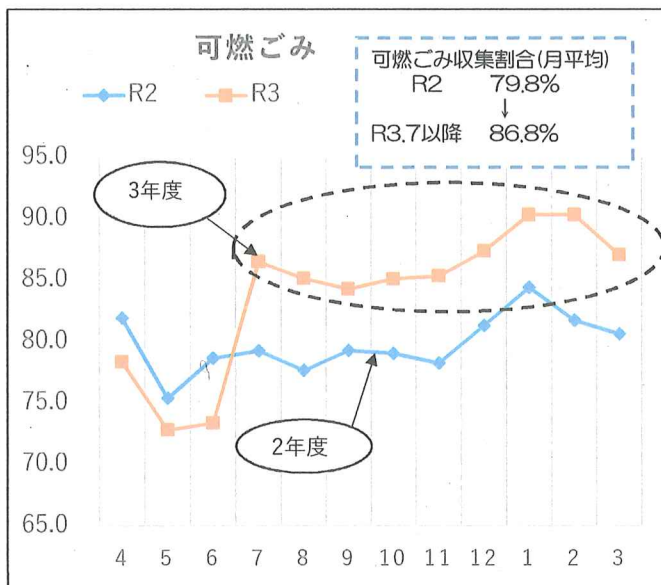
(1) 両施設の搬入台数の変化について



- 両施設とも、搬入受付手数料の徴収により7月から大幅に減少。月毎に変動はあるものの低い水準を維持している。
- 令和3年7月以降の月平均搬入台数は、令和2年度と比較して清掃事務所は68%、リサイクルプラザは70%減少。

⑥施設への直接搬入について

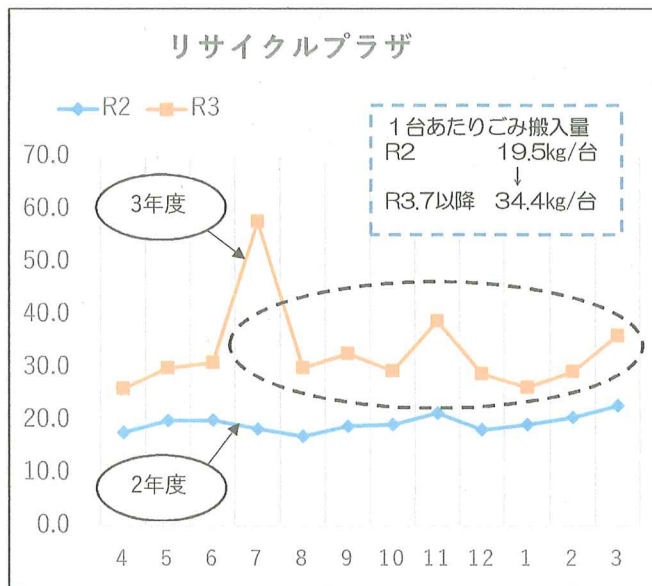
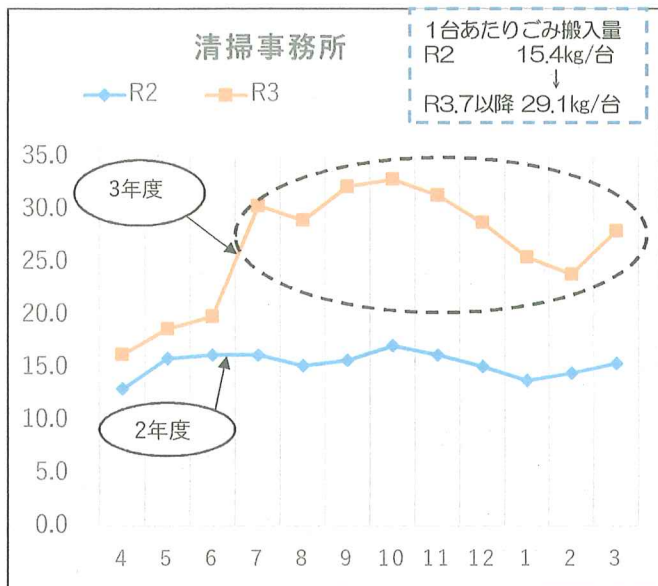
(2) 可燃ごみ・不燃ごみの収集割合(収集量/ごみ排出量)について(単位：%)



- 搬入受付手数料の導入を機に、可燃ごみ・不燃ごみともに収集量が増加し、収集割合が上昇。
- 不燃ごみ(7種9分別)においては約20%上昇しており、変化が顕著である。

⑥施設への直接搬入について

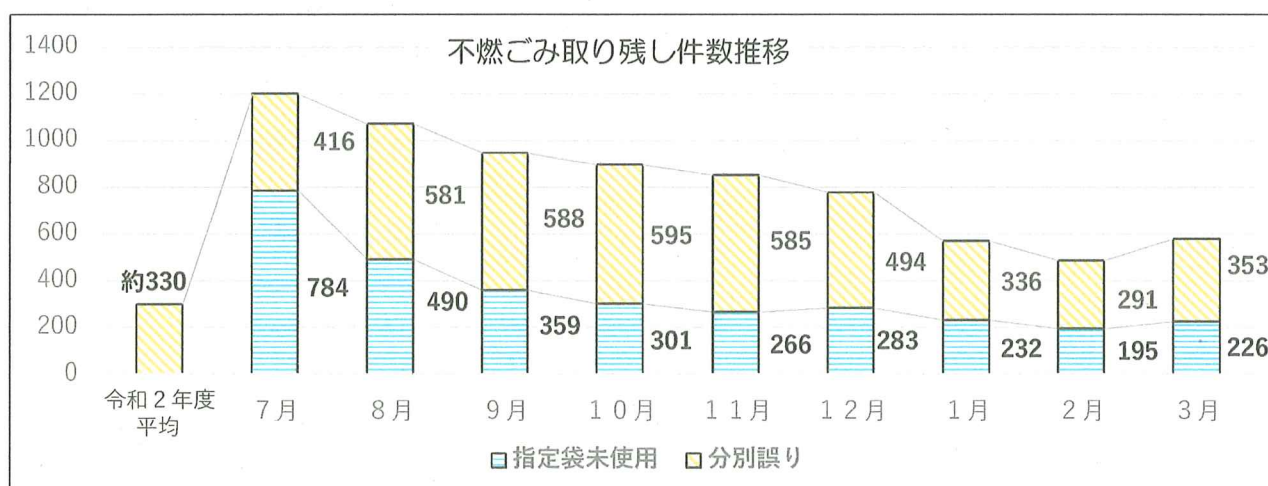
(3) 直接搬入1台あたりのごみ搬入量の変化について(単位：kg/台)



- 搬入受付手数料の導入を機に、両施設とも1台あたりのごみ搬入量は大幅に増加。
- 更なるごみ減量、公平な受益者負担の実現に向けて、搬入受付手数料の従量制の導入を検討している。

⑦取り残しごみの状況について

(1) 令和3年7月以降の不燃ごみ取り残し(収集できないごみ)



- 分別誤りについては、令和3年12月に間違いやすい分別区分に関するチラシを作成し、各自治会に配布。分別誤りによる取り残し件数は減少傾向にあり、令和2年度の水準に近付いている。
- 不燃ごみ全体での取り残し件数も減少傾向にあるが、引き続き分別ルールの徹底や指定ごみ袋の使用について周知を図る必要がある。

⑦取り残しごみの状況について

(2)市民向けの周知活動について

- 不燃ごみで分別の間違が多いものについて、啓発チラシを作成し、令和3年12月、令和4年4月に自治会回覧を実施。
- ごみ分別ルールブックの作成・配布（令和4年3月）



舞鶴市ごみ分別ルールブックでも間違いやすい分別区分を紹介

⑧まとめ

(1)ごみ減量・リサイクルについて

- 令和3年7月以降、1人1日あたりごみ排出量は目標値を上回るペースで減少しているが、一定期間が経過し、今後のリバウンドも想定されることから、引き続きごみ量の変化について観察が必要。
- ペットボトル、白色トレイ等のスーパーの店頭回収利用が増加しており、実施店舗の利用マナーが課題。小売店等によるプラスチック容器類の自主回収を継続するためにも、利用マナー向上に向けた啓発が必要。

(2)直接搬入について

- 令和3年7月以降、直接搬入台数は大幅に減少。搬入受付手数料導入後、継続して低い水準で推移。
- 更なるごみ減量、公平な受益者負担の実現に向けて、搬入受付手数料の従量制の導入を検討。

(3)適正排出と取り残しごみについて

- 取り残しごみの中で分別間違いが多い品目については、重点的に周知を図ることで取り残し件数は改善したが、さらなる取り残し数の減少に向けた啓発が必要。

⑨その他(可燃ごみ組成調査)

(1)令和3年度可燃ごみ組成調査の実施について

- 調査の目的  
家庭から排出される可燃ごみについて、ごみ組成調査を行い、舞鶴市ごみ処理基本計画の更なる推進に向けた基礎資料とするべく実施したもの。
- 調査実施日 令和3年11月

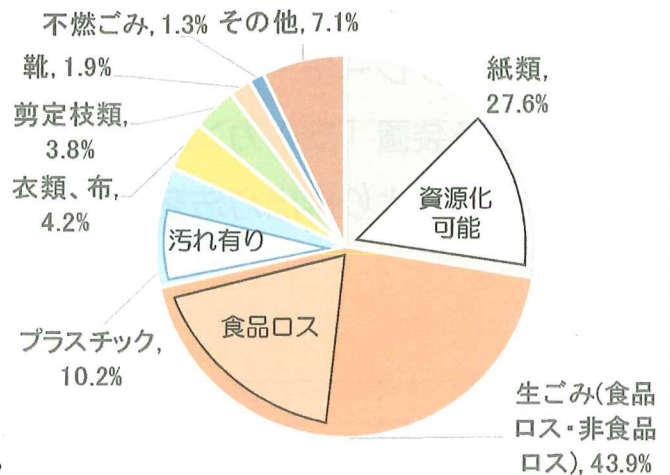


⑨その他(可燃ごみ組成調査)

- 調査結果について  
紙類、生ごみ(食品ロス・非食品ロス)、プラスチックが占める割合が多く、3項目で全体の約8割を占めていた。



R3可燃ごみ組成調査内訳(重量比)



- 舞鶴市の家庭ごみ排出状況について
  - ①紙類として排出されたごみのうち、資源化可能な紙類が約半分を占めていた。
  - ②生ごみのうち、約4割が食品ロスであり、この割合は令和2年度環境省調査の数値と比較するとやや多い。
  - ③プラスチックごみの約7割は「汚れの付着したプラスチック包装・袋類」であり、洗浄して汚れを落とせばプラスチック容器包装類として資源化可能。  
→この3点について重点的に啓発を図ることが、今後更なるごみ減量・資源化を図るうえで重要となってくる。

⑨その他(ごみ出し支援戸別収集・在宅医療で出るごみ)

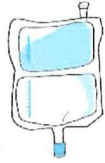
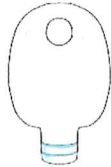
(2) 高齢者等ごみ出し支援戸別収集事業の実施状況について

- ・申請件数：138件(令和4年3月31日時点)



(3) 在宅医療で発生するごみへの無料袋交付について

- ・交付実績：42件(令和4年3月31日時点)  
 ※腹膜透析22件、18歳未満5件



⑨その他(スプレー缶の分別区分変更)

(4) 分別区分の一部変更について

- ・リサイクルプラザに、穴があいていない使用済みスプレー缶・カセットボンベ等を処理できる装置「安心カンカン」を導入。令和4年4月より排出方法を変更。



	令和4年3月まで	令和4年4月から
排出方法	中身を使いきって風通しの良いところで穴をあけて出す。	中身を使いきって穴をあけずに出す。
分別区分 (7種9分別)	金属類	有害ごみ

⑨その他(廃棄物処理施設の整備)

(5)舞鶴市一般廃棄物最終処分場新処分場の供用開始について

- ・新処分場竣工式を令和4年3月6日に実施

総工事費：約15億6千万円  
 処理能力：埋立ごみ容量10万m<sup>3</sup>  
                   水処理能力100t/日  
 供用期間：約15年間



(6)清掃事務所の長寿命化工事について

- ・清掃事務所長寿命化計画に基づき、焼却施設の改良工事を令和元年度から実施。
  - ・令和3年度は2号炉が工事完了
  - ・令和4年度・5年度で1号炉の工事を実施予定。
- 総工事費：約38億円  
 工事完了：令和6年2月(予定)

⑨その他(プラスチック資源循環促進法)

(7)プラスチック資源循環促進法について 令和4年4月1日施行



プラスチック資源循環特設サイト

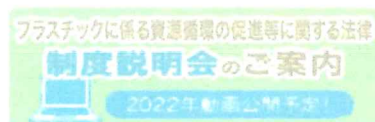
circulation of plastic resources  
 プラスチック資源循環

検索



プラスチックは  
 えらんで  
 減らして  
 リサイクル

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が2022年4月1日に始まりです



<http://plastic-circulation.env.go.jp>

プラ新法

Search

⑨その他(プラスチック資源循環促進法)

(8) プラ新法施行に伴う各企業の取り組み

【小売業界】

- 穴を開けて小型化したスプーンとフォークの導入(ローソン)
- 植物由来の素材を3割配合したフォークの導入(セブン-イレブン・ジャパン)
- スプーンとストローを紙製や木製へ切り替え(ライフコーポレーション)

【飲食業界】

- 一部店舗にて紙ストローや木製カトラリーの導入(日本マクドナルド)
- 持ち帰り用スプーンの有料化(王将フードサービス)
- テイクアウト容器を紙製へ切り替え(びっくりドンキー)

【宿泊業界】

- 歯ブラシ等のアメニティを竹や木材等の代替素材へ置き換え(帝国ホテル)
- プラスチック製アメニティ類を順次環境配慮素材へ変更(アパホテル)